

令和 4 年度参画と協働のまちづくり審議会
視察研修報告書

令和4年度第2回参画と協働のまちづくり審議会視察研修報告書

1 期 間 令和4年9月28日（水曜日）

2 視 察 地 鴻巣市市民活動センター

3 視察事項

(1) 施設見学

(2) 講話「まちづくりと市民活動について」

講師 街活性室株式会社 代表取締役 斎藤 徹

4 参 加 者

参画と協働のまちづくり審議会

会 長 渡部 勲

副会長 増田政史

委 員 中島勝夫

委 員 江原 孝

委 員 小森あゆ子

委 員 林 修嗣

委 員 堀切俊介

5 視察目的

令和元年度参画と協働のまちづくり審議会での検証、検討結果に基づき、白岡市コミュニティセンターを市民活動に関する情報を収集発信し、活動を有効に展開できる場所として位置づけた。

今後、市民活動支援をしていくうえで、白岡市として必要となる取組を検討していくため、先進的な活動に取り組んでいる鴻巣市市民活動センターを視察する。

6 視察内容

(1) 施設見学（説明者：街活性室株式会社 折原孝幸氏）

- ・施設内に、市内の市民活動団体をまとめたファイルが回覧できる。
- ・市民活動センターに登録されている活動団体は、現在336団体。新たに団体を立ち上げたいというかたのフォローを行っている。登録するには、審査が必要となる。
- ・市民活動団体の活動チラシ等を掲示するコーナーがある。現在は、環境活動やスポーツ活動など20種類程度掲示されている。
- ・登録団体から、講座の開設方法や団体立ち上げの相談を受けている。さらに、補助金や助成金を受ける際の審査会やプロポーザルについて、プレゼンテーションの指導も行っている。
- ・年に一度、施設のアンケート調査を実施し、登録団体や市民との懇談会を開催し、鴻巣市の活性化について勉強している。
- ・コミュニティ大学という、市民活動を展開できる講座も開催している。現在の登録者数は約1,500名となっている。広報やチラシ、SNSでの発信を行っている。



(2) 講話「まちづくりと市民活動について」

(講師：街活性室株式会社 代表取締役 斎藤 徹氏)

- ・ 地方都市は今後どうなっていくのか

少子高齢化や人口減少によって、地域コミュニティの機能が低下する。行政主導での街の活性化は厳しく、自治体財政では成り立たなくなる。

- ・ 街の活性化を担うのはだれか

白岡には、自主的に地域活動をしている団体がいる。このような多彩な人材が、自走できるようにサポート（中間支援のシステム）が必要。

人材データを構築し、人と人をマッチングすることで、市民主体の活動を支援する。

- ・ 手法の検討

新たに立派な施設を作る必要はない。支援をするための体制を整えることが大切。支援講座を恒常開催し、コーディネーターを配置する。また、マッチングシステムを構築するなどの手段が考えられる。

- ・ これからのまちづくり

生涯学習活動から市民活動へ誘導し、行政と共にまちの計画を立案し実行していくことが理想。

いろいろな方を巻き込み、一緒に議論していくことで、次の世代に誇れる白岡になるのではないかな。

